

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	十文字学園女子大学
設置者名	学校法人 十文字学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある 教員等による 授業科目の単位数				省令で定める 基準単位数	配置困難
			全学 共通科目	学部等 共通科目	専門科目	合計		
人間生活学部	健康栄養学科	夜・通信	16		14	30	13	
	食物栄養学科	夜・通信			14	30	13	
	食品開発学科	夜・通信			14	30	13	
	人間福祉学科	夜・通信			14	30	13	
教育人文学部	幼児教育学科	夜・通信			14	30	13	
	児童教育学科	夜・通信			14	30	13	
	心理学科	夜・通信			14	30	13	
	文芸文化学科	夜・通信			14	30	13	
社会情報デザイン学部	社会情報デザイン学科	夜・通信			14	30	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

本学 HP https://www.jumonji-u.ac.jp/outline/jouhou/2020_study-support/practitioner_teacher/
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名

(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	十文字学園女子大学
設置者名	学校法人 十文字学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

学園 HP https://gakuen.jumonji-u.ac.jp/information/officer/

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	株式会社取締役会長	R7.6.16～ R11.6. 定時 評議員会終 結の時まで	広告・広報
非常勤	私立大学名誉教授	R7.6.16～ R11.6. 定時 評議員会終 結の時まで	法人運営全般
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	十文字学園女子大学
設置者名	学校法人 十文字学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。 (授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) シラバスの作成にあたっては、教務企画委員会がシラバスの記載事項、書式等を定めた「シラバスガイドライン」を策定し、各教員に記載内容の説明・周知を行っている。 シラバスには、科目ごとに、授業形態、遠隔授業対象科目かどうか、実務経験の有無、ねらい(①科目の性格、②科目の概要、③授業の方法(ALを含む)、④到達目標、⑤ディプロマ・ポリシーとの関係)、各授業回の内容、授業外学習の内容と学習時間の目安、フィードバックの方法、評価方法および評価の基準、さらに科目ルーブリックについて記載したものを作成している。各科目のシラバスは、年度の始め(4月)までに当該年度の内容に更新し、本学HP「大学案内・情報の公開 シラバス」のページで公開している。	
授業計画書の公表方法	本学HP「大学案内・情報の公開 シラバス」 https://www.jumonji-u.ac.jp/outline/syllabus/
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。 (授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 「十文字学園女子大学 履修規程」第6条(単位認定)に「単位認定は、履修期間における学修の平常成績、試験成績等による評価の結果に基づいて行い、予めシラバス等によりその方法を周知するものとする」としており、シラバスには評価基準を記載している。また、『履修の手引き』P.12に記載のあるとおり履修登録を行い、各授業に出席し受験資格を得られた学生に限り所定の試験を受けることができ、その試験で合格の評価を得た学生には所定の単位が認定されるものとしている。 <参考>『履修の手引き』 https://www.jumonji-u.ac.jp/campuslife/registration-guide/	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。 (客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 「十文字学園女子大学 履修規程」第 16 条（学修成果の評価）第 1 項に「学生の学修の状況及び成果を示す指標として、GPA（グレードポイント・アベレージ）を用いる。成績評価に応じて設定した5段階のポイントGP（グレードポイント）に基づき、この平均値であるGPAを算出する」と定め、第 2 項にGPの設定及びGPAの算出方法について定めている。GPAは原則全科目を対象に成績評価に応じて5段階のポイントを設定し、分母を履修登録科目の総単位数とし、分子をS～Dの5段階に重みづけした点数の単位ごと合算した数として、小数点以下第3位を四捨五入した3桁の数値で算出している。本学では、そのGPAに基づいた学生への学修指導や成績優秀者へのCAP制の緩和措置を行っている。このことは、『履修の手引き』に明記し、公表している。学生は、各科目の成績評価を点数に換算することで、自らの学修状況を客観的に把握することができ、各学期や年度毎のGPA値を比較することで、学修成果を振り返ることや、卒業までの履修計画策定に活用している。成績分布の把握については、企画評価部IR課で行う全体状況の集計結果について教務企画委員会で情報共有し分析と議論を行っている。	
客観的な指標の算出方法の公表方法	本学 HP『履修の手引き』より https://www.jumonji-u.ac.jp/media/04seiseki2025.pdf
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 (卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 大学で身につけるべき資質、能力について、大学全体・学部・学科それぞれの「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」を定めており、これに則った履修指導、卒業に向けた指導体制を構築し、実施している。また、本学HPや『履修の手引き』、『学びのハンドブック』を作成し公表している。さらに授業科目とディプロマ・ポリシーとの関係をシラバスに記載することで、当該授業科目の到達目標とあわせて、学生が身につけるべき資質、能力を示して認識の共有を図ることとしている。学生に対しては『学びのハンドブック』を用い「教育目標とディプロマ・ポリシー等」について説明会を開催し、理解を深める取り組みを行っている。	
卒業の認定に関する方針の公表方法	本学 HP 「大学案内・情報の公開—教育研究上の目的に関すること（3つのポリシー）」 https://www.jumonji-u.ac.jp/media/001daigaku06.pdf

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	十文字学園女子大学
設置者名	学校法人 十文字学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://gakuen.jumonji-u.ac.jp/information/financial/
収支計算書又は損益計算書	https://gakuen.jumonji-u.ac.jp/information/financial/
財産目録	https://gakuen.jumonji-u.ac.jp/information/financial/
事業報告書	https://gakuen.jumonji-u.ac.jp/information/financial/
監事による監査報告(書)	https://gakuen.jumonji-u.ac.jp/information/financial/

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:	対象年度:
公表方法: https://gakuen.jumonji-u.ac.jp/information/financial/	
中長期計画(名称:	対象年度:
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: 大学ホームページにて公表 https://www.jumonji-u.ac.jp/outline/evaluation/gaibuhyouka/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: 大学ホームページにて公表 https://www.jumonji-u.ac.jp/outline/evaluation/univ/

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

① 教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 人間生活学部
教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページにて公表） https://www.jumonji-u.ac.jp/outline/jouhou/activity/kenkyumokuteki_5c70a7c022396/
（概要） 人間生活学部は、建学の精神に基づき、「食・栄養・運動・福祉」を教育研究の中核とし、人々の豊かな生活と健康の保持・増進に寄与するために必要な専門的知識と技能を備え、多様な人々の健康で幸福な【健幸】を支援できる人材を育成することを教育研究上の目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表） https://www.jumonji-u.ac.jp/outline/jouhou/activity/gakusyuseika_5c70a9e90beee/
（概要） 人間生活学部は、次の学生像を人材育成の方針とする。 1. 「食・栄養・運動・福祉」に関する知識を基に、生涯にわたって人・社会に関心を持ち、「健幸」について科学的に思考し、探究しつづける力を備えている。 2. 多様な価値観と向き合い、他者を尊重し互いを認め合いながら、連携・協働する力を備えている。 3. 人間生活における様々な課題を見い出し、解決するための策を思考し、実践する力を備えている。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表） https://www.jumonji-u.ac.jp/outline/jouhou/activity/kenkyumokuteki_5c70a7c022396/
（概要） 健康栄養学科では、栄養学を基盤として、運動と食文化の分野における専門知識や技能を身につけ、理解することにより、すべての人々が心身ともに健康で幸福な生活を送る【健幸】のために、多様な人々とのつながりや協働を生み出すことができる人材を育成することが教育研究上の目的である。 食物栄養学科では、人間栄養学を基盤とする食・栄養・健康の専門知識・技能を有し、健康や食生活の問題に取り組み、的確な栄養管理ができる人材の育成を教育研究上の目的としている。そのため、基礎的な内容から総合的・統合的な内容へ、順次学修を発展させるカリキュラムとして、専門基礎領域・応用領域・展開領域・実践領域の 4 領域を設定している。 食品開発学科では、食の科学をベースとして、開発、おいしさ、安全と安心、機能性、ビジネスに関する専門的知識を備えた人材を養成する。さらに、高度な食品開発研究を推進し、食農体験、カフェ実習、商品開発企業演習に参画し、卒業研究を通して高度な専門性を活用した課題解決能力を育成する。これらの学修により、食品開発に対する多様なニーズに応える高度な専門知識と技術を修得させることが本学科の特色である。 人間福祉学科では、社会福祉の学びを基礎とし、学科全員が共通に学ぶ「社会福祉基礎科目」、目指す専門性に応じて選択する「ソーシャルワーク専門科目」「介護福祉専門科目」「保育専門科目」、知識・技術の統合を図る「社会福祉実践科目」、福祉専門職としての

資質向上や学部共通理念である【健幸】への学びを深める「社会福祉展開科目」「演習・卒業研究」を設ける。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表） https://www.jumonji-u.ac.jp/outline/jouhou/activity/kenkyumokuteki_5c70a7c022396/
（概要） 健康栄養学科では、教育研究上の目的と教育内容を踏まえたうえで、次のような学生を求める。 1. 栄養・運動・食文化に強い関心を持ち、健康的な生活を思考・実践したい。 2. 健康に関する諸問題を栄養及び運動、食文化の視点から考察し、他者を支援したい。 3. 多様な人々と協働し、社会の健康づくりに貢献したいという意欲がある。 食物栄養学科では、食・栄養・健康に関心を持つ、次のような学生を求める。 1. ヒトや課題について科学的視点に立ち、理解をしようとする意欲がある。 2. 人々の幸せに寄与し、社会に貢献したいという意欲がある。 3. 倫理観と責任感をもって、協調しながら問題を解決しようとする意欲がある。 食品開発学科では、教育研究上の目的と教育内容を踏まえたうえで、次のような学生を求める。 1. 食の科学をベースとして、開発、おいしさ、安全と安心、機能性、ビジネスに関して興味・関心があり、主体的、継続的に知識や技術を学ぶ意欲がある。 2. 人々の健康や幸せに寄与する食品を創造するための開発研究に強い興味・関心がある。 3. 将来、食のスペシャリストとして、新しい食品の創造・開発や食サービスを通して、社会に貢献する意欲がある。 人間福祉学科では、教育研究上の目的と教育内容を踏まえたうえで、次のような学生を求める。 1. 人間の尊厳を守り、基本的人権を尊重することができる。 2. 社会福祉に興味を持ち、共感的態度をもって、人を支援することを志向できる。 3. 健康長寿社会の課題に関心を持ち、地域社会と関わりながら、その解決に向け積極的に取り組むことができる。 大学入学選抜では毎年度見直しを行っているが今年度は以下の点について見直しを行った。 ・一般選抜における外部試験利用方式（英語）の拡充 2025 年度入試では一般選抜 A・B 日程にて実施。一般選抜 A 日程で英語を選択した場合は、当日試験の英語の成績もしくは用英語技能検定の他に TEAP などの取得スコアに応じた得点換算のどちらか高い点数を採用した。一般選抜 B 日程では、英語を選択した場合、実用英語技能検定の他に TEAP などの取得スコアに応じた得点換算を採用するなど拡充を行った。 2026 年度入試においては、一般選抜 C 日程にも、外部試験利用（英語）を拡充する。 ・上記に加え、一般選抜 B 日程では継続して、国語の記述式問題の出題を行っている他、全ての入試区分において試験当日に病気・負傷・障害の関係で特別な配慮を希望される受験生に対して、可能な限り柔軟な配慮を行っている。
学部等名 教育人文学部
教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページにて公表） https://www.jumonji-u.ac.jp/outline/jouhou/activity/kenkyumokuteki_5c70a7c022396/

(概要) 教育人文学部は、建学の精神に基づき、教育学、心理学、文学を教育研究の中核として、価値や文化が多様化・多元化する中で、年齢や立場、文化的背景の異なりを超え、他者を受容し理解する姿勢を育み、創造と思考を重ねて生涯にわたって成長・発達を続ける人材を育成することを教育研究上の目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表） https://www.jumonji-u.ac.jp/outline/jouhou/activity/kenkyumokuteki_5c70a7c022396/
(概要) 教育人文学部は、次の学生像を人材育成の方針とする。 1. 「こころ」と「ことば」を根幹として、それらが織りなす人間の創造性を読み解き、自他ともに学び続けることにより、生涯にわたって自己を確立しようとする態度を身につけている。 2. 自他との深い対話を通して、共感的理解力を備えた人間性を育み、多様性の理解に基づいた他者と協働する力を身につけている。 3. 社会における諸課題を捉え、多様な文化を認め合いながら、持続可能で豊かな社会の構築に寄与する力を身につけている。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表） https://www.jumonji-u.ac.jp/outline/jouhou/activity/kenkyumokuteki_5c70a7c022396/
(概要) 幼児教育学科では、「子どもから学ぶ」という基本姿勢をもった保育者養成を基盤とし、ディプロマ・ポリシーに挙げた資質・能力を身につけるためのカリキュラムとして6領域を設定し、各領域に学修過程に応じた科目を配置する。 1. 「保育・教育の本質」領域では、保育の基本的理念や制度、社会の諸課題に対する知識の修得を目指し、子どもの育ちを支える保育者としての基本姿勢を養う講義科目を設置する。 2. 「子ども理解・人間理解」領域では、子どもを共感的に理解し、他者と対話・協働しようとする姿勢を養い、子どもの育ちを理解するための専門的知識や技能を幅広く修得する科目を設置する。 3. 「保育・教育の内容と方法」領域では、保育内容の各領域や、乳児保育や障害児保育等の各分野に特化した知識と技能を修得するとともに、保育内容の総合性を理解し、保育を構想する力を養う演習形式の授業を中心とした科目を体系的に設置する。 4. 「感性と表現」の領域では、子どもの豊かな表現を見つめ、育むために、子どもと響き合う感性や表現力を涵養する。そのため、演習形式の授業における参画型の学修を中心とした授業を設置する。 5. 「フィールドワーク（実習）」領域では、さまざまな保育現場で子どもや保育者等とかわりながら、状況に応じて判断・行動する力、協働的に保育を構想・実践する力を段階的に身につけ、自らの保育を省察し続ける姿勢を養う科目を1年次より設置する。 6. 「発展と総合」領域では、保育・教育の学びを統合する科目、研究方法に関する知識を修得する科目を3年次の必修科目として設置する。また、3・4年次を通して自己課題や子どもをめぐる諸課題を発展的に探求できる選択科目を設置する。 7. 3年次後期より卒業研究に向けたゼミナール形式の科目を設置する。4年次には本学科で学修した成果をまとめて社会に還元するための科目として卒業研究を設置する。 各授業の目標に応じて、ディスカッションやグループワークを通して仲間と学び合う機会、リアクションペーパー等を通して教員と双方向的に学び合う機会、主体的に課題を探究し、発表する機会を適切にもつ。

児童教育学科では、教員として必要な資質や能力を養うために、講義・演習・実技・学校インターンシップ・教育実習等を通して、教育学や教育理論と教育実践との往還的な学習を深めるようカリキュラムを編成することを基本とし、各領域では以下の力を育成することを目指す。

1. 「初等教育教員養成分野」領域では、小学校教員の基盤となる各教科等の知識・技能を身につけ、確かな指導方法を理解する力を育成する。
2. 「特別支援教育分野」領域では、インクルーシブ教育の実現に向けた確かな知識・技能を身につけ、特別支援教育についての高い専門性を有する力を育成する。
3. 「学校実地研究分野」領域では、理論と実践の往還を重視した実践的指導力を育成する。
4. 「学校教員実力養成分野」領域では、多様な表現活動や演習を通して組織の一員としての協調性や柔軟性を身につけ、他者とのコミュニケーションできる力を育成する。
5. 「幼稚園教員養成分野」領域では、幼稚園教員として確かな知識・技能を身につけ、幼稚園、小学校との接続・連携を推進できる力を育成する。
6. 「中等教育教員養成（外国語）分野」領域では、英語教育を推進できる中学校・高等学校教員として確かな知識・技能を身につけ、小学校との接続・連携を推進できる力を育成する。
7. 「演習」領域では、自己の課題に向けて研究を深め、探究心や学び続ける力を育成する。

心理学科では、ディプロマ・ポリシーに挙げた資質・能力を身につけさせるため、教育課程として7領域を設定し、各領域に学修過程に応じた科目を配置する。

1. 心理学の理論や概念、実証的・科学的な考え方を理解するための基盤となる知識を身につけ、心理学的な心の捉え方を理解する力を養うために、「心理学概論」、「知覚・認知心理学」などの科目を含む【心理学基礎（心のしくみ）】領域を配置する。
2. 人間の心と行動を実証的・科学的に検証・分析する方法を習得するとともに、実習を通して実践に通じる技能を養うために、「心理学実験」、「心理学的研究法」、「心理学情報処理法」を含む【研究法・データサイエンス（心の探求）】領域を配置する。
3. 人間の発達過程に対する多面的かつ複合的な理解を深め、その知識を基盤としながら教育現場に対する理解と指導について実践的に学び、問題や課題を早期に発見する姿勢及び柔軟に対応できる力を養うために、「発達心理学概論」、「教育心理学」、「養護教諭実践論」を含む【発達・教育（心と育ち）】領域を配置する。
4. 心のケア・サポートに関する知識や理論を学び、事例学習や実習を通して心理的な課題への支援・援助に関する専門的知識及び技能を養うために、「臨床心理学概論」、「カウンセリング技法」、「公認心理師の職責」などを含む【臨床（心のケア）】領域を配置する。
5. 社会の諸場面（自己、対人関係、集団、組織）における人々の行動特性を学び、日常生活における課題に対して心理学の専門的知識を活かす姿勢を養うために、「社会心理学概論」、「対人関係の心理学」、「産業心理学」などを含む【社会・産業（心とつながり）】領域を配置する。
6. 学校における児童・生徒の養護及び保健教育・指導に関わる専門的知識や技能を習得し、かつ事例学習や実習を通して現場において問題や課題を早期に発見する姿勢及び問題に対して柔軟に対応できる力を養うために、「学校保健Ⅰ」、「人体の構造と機能及び疾病」、「小児保健看護学」、「健康・医療心理学」などを含む【健康・保健（心とからだ）】領域を配置する。
7. 学びの集大成として、研究論文の作成に取り組み、その過程で課題発見・解決力や論理的思考力を養うために、「卒業研究」を含む【卒業研究】領域を配置する。

文芸文化学科では、人間と言葉への理解を深めるとともに、多彩な表現活動の意味を認識

し、文化・芸術の創造的な働きや豊かな広がり、及びその価値を感得し、多様な文化環境を有する社会へ新たな文化・芸術の創造・発信に結びつく段階的なカリキュラムを設定している。

- ・1年次では、アカデミック・リテラシーと言語運用能力を涵養し、進級後の専門学習に必要な基礎的な知識・技能を身につける。
- ・2年次では、思考力、判断力、表現力、分析力、情報処理能力、コミュニケーション能力を養うPBL型演習科目「文芸文化ゼミ」を軸に、1年次で修得した知識・技能をさらに発展、拡充させ、さまざまな文化や芸術を対象とする研究に応用することを通して、主体性・多様性・協働性を身につける。また、3年次のコース選択に備えるため、幅広い領域にわたる学科専門科目や「ワークショップ科目」の履修により、1・2年次に多様な文化・芸術に触れることで自己の興味・関心のあり方を見定める。
- ・3年次では、「日本語・日本文学コース」「多文化理解・共生コース」「芸術・文化コース」のいずれかを選択し、少人数制の演習科目「文芸文化テーマ研究ゼミ」の履修により専門分野へのさらなる考究を深め、4年次の「卒業研究」への取り組みに結びつける。
- ・4年次では、学びの集大成として「卒業研究」において卒業論文、卒業制作に取り組み、その過程で課題発見・解決力や論理的思考力を身につける。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表）

https://www.jumonji-u.ac.jp/outline/jouhou/activity/kenkyumokuteki_5c70a7c022396/

（概要）

幼児教育学科では、教育研究上の目的と教育内容を踏まえたうえで、次のような学生を求める。

1. 基礎的な学力を身につけている。
2. 豊かな感性をもっている。
3. 人と協力して物事を進めていくことができ、基本的な社会性を備えている。
4. 子どもと共に学び、子どもと共に成長しようとする意欲がある。

児童教育学科では、教育研究上の目的と教育内容を踏まえたうえで、次のような学生を求める。

1. 自分のよさを伸ばしたい。
2. 子どもの喜びを自分の喜びとする。
3. 知的好奇心に富み、学び続ける力を備えている。

心理学科では、教育研究上の目的と教育内容を踏まえたうえで、次のような学生を求める。

1. 人間の心と行動に対して興味がある。
2. 共感的態度を有し、他者を支援したいという意欲がある。
3. 知的好奇心に富み、物事を科学的・論理的に考察する思考力を備えている。

文芸文化学科では、学園歌「身をきたへ 心きたへて 世の中に たちてかひある 人と生きなむ」の精神に基づき、教育研究上の目的と教育内容を踏まえたうえで、次のような点を評価して入学者を受け入れる。

1. 言葉を有する人間が生み出した文化・芸術に知的な好奇心を抱き、それを追究するための深い洞察力を得たい。
2. 多様な文化的背景をもつ人々との協働を視野に、論理的な思考力、柔軟な発想力、的確な表現力を身につけたい。
3. 生涯を通して持続可能な教養を身につけ、新たな文化・芸術を創造する意欲がある。

大学入学選抜では毎年度見直しを行っているが今年度は以下の点について見直しを行った。

- ・一般選抜における外部試験利用方式（英語）の拡充

2025 年度入試では一般選抜 A・B 日程にて実施。一般選抜 A 日程で英語を選択した場合では、当日試験の英語の成績もしくは用英語技能検定の他に TEAP などの取得スコアに応じた得点換算のどちらか高い点数を採用した。一般選抜 B 日程では、英語を選択した場合、実用英語技能検定の他に TEAP などの取得スコアに応じた得点換算を採用するなど拡充を行った。

・2026 年度入試においては、一般選抜 C 日程にも、外部試験利用（英語）を拡充する。

・総合型選抜における、探究学習アピール方式の導入

2022 年の学習指導要領の変更により導入された「総合的な探究の時間」が一巡したこともあり、2026 年度入試の総合型選抜において、授業の中で得た成果や気づきをプレゼンテーションし評価する方法を心理学科と文芸文化学科において採用する。

・上記に加え、一般選抜 B 日程では継続して、国語の記述式問題の出題を行っている他、全ての入試区分において試験当日に病気・負傷・障害の関係で特別な配慮を希望される受験生に対して、可能な限り柔軟な配慮を行っている。

学部等名 社会情報デザイン学部

教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページにて公表）

https://www.jumonji-u.ac.jp/outline/jouhou/activity/kenkyumokuteki_5c70a7c022396/

（概要）

社会情報デザイン学部は、建学の精神に基づき、多様化・複雑化する社会に対する理解や知識を修得するとともに、生涯にわたって自己研鑽していく態度を修得し、社会に対する自発的な関心のもとに課題を発見し、他者を尊重し互いを認め合いながら協働し、情報を活用しながらよりよい社会を目指した創造、提案ができる人材を育成することを教育研究上の目的とする。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表）

https://www.jumonji-u.ac.jp/outline/jouhou/activity/kenkyumokuteki_5c70a7c022396/

（概要）

社会情報デザイン学部は、次の学生像を人材育成の方針とする。

1. 多様化・複雑化する社会に対する知識を有し、よりよい社会を実現していくうえで必要となる思考力と自己研鑽していく態度を持っている。
2. 多様な他者の価値観を理解、尊重しながら、対話を通じて他者に働きかけ、協働することができる。
3. 自発的な関心に基づき課題を発見し、情報を活用しながら、他者と協働してよりよい社会を目指した創造、提案をすることができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表）

https://www.jumonji-u.ac.jp/outline/jouhou/activity/kenkyumokuteki_5c70a7c022396/

（概要）

社会情報デザイン学科では、ディプロマ・ポリシーに定める資質・能力を育成するために必要な授業科目を精選し、系統的かつ体系的な教育課程を編成している。そのために、社会情報デザイン学科では、「基礎ユニット」「専門ユニット」「演習・卒業研究」の3つの領域区分を設け授業科目を配置している。

基礎ユニットでは、これからの社会において必要となる基礎的な知識や力を養うとともに、生涯にわたって自己実現を成し遂げるうえで必要となる基本的な姿勢を育むことを目的とする。

この目的を果たすために、以下の3つのユニットを設定する。

- ・「現代社会理解」では、これからの社会において必要となる社会やビジネスに関する基本的な知識やスキルを広く養うことを目的とし、「現代社会の基礎理解」「ビジネス入門」「現代社会論」「社会学概論」を必修科目とする。
- ・「思考・表現」では、グループワークなどを通じて、他者と協働し、チームで新しい価値を生み出すためのスキルや姿勢を育むことを目的とし、「発想法入門」「課題探究ワークショップⅠ」を必修科目とする。

・「情報活用」では、コンピューターを用いた演習などを通じて、これからの社会において必要となる情報の収集・活用に関する基本的な知識やスキルを養うことを目的とし、「社会情報リテラシー」「調査・統計リテラシー」を必修科目とする。 専門ユニットでは、自らの興味関心に基づいてより高度な専門知識を身につけるとともに、それをさまざまな場面で活用することで、社会課題の発見・解決を志向する力を養うことを目的とする。 この目的を果たすために、以下の5つのユニットを設定する。 ・「経営・マーケティング」では、ビジネスの現場で生ずるさまざまな問題を解決するために必要となるマネジメントやマーケティング能力を養うことを目的とする。 ・「社会デザイン」では、社会課題を発見しその解決の道筋をつけるためのより高度な知識と調査スキル、そして実践力を養うことを目的とする。 ・「データサイエンス」では、さまざまなデータを収集・分析・活用する方法を習得することを目的とする。 ・「情報システム」では、より高度なプログラムを作成するための知識とスキルを養うことを目的とする。 ・「メディアデザイン」では、色彩や音響、映像などのデザインの技法を習得することを目的とする。 演習・卒業研究では、習得してきた知識・スキルを統合し活用する能力を養い、主体的に課題探究に取り組み、その成果を発表する力を養うことを目的とする。 この目的を果たすため、「演習Ⅰ」、「演習Ⅱ」、「卒業研究」を必修科目とする。 教育の実施には、それぞれの科目の内容に合った授業形態（講義、演習、実習）を用いる。他者と協働する力を育成し、主体的な学びの姿勢を高めるために、教員と学生間の双方向型授業、グループディスカッション、グループワーク等のアクティブ・ラーニングの手法を取り入れたPBL（課題解決型授業）を導入する。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表） https://www.jumonji-u.ac.jp/outline/jouhou/activity/kenkyumokuteki_5c70a7c022396/
（概要） 社会情報デザイン学科では、本学科に入学してくる学生が、学科の人材育成目的の達成に向けて開設される科目群を履修することによって、卒業時までには自身の将来の展望を見出し、それに必要な汎用的スキルと専門知識を獲得し、そしてその後の絶えざる自己研鑽の姿勢を形成できるようになるために、以下の資質・能力を有する人を求める。 1. 多様化・複雑化する社会の出来事に対して興味がある。 2. 他者と互いを尊重し認め合いながら協働しようとする意欲がある。 3. 課題の発見・解決の基礎となる論理的思考力を備えている。 大学入学選抜では毎年度見直しを行っているが今年度は以下の点について見直しを行った。 ・一般選抜における外部試験利用方式（英語）の拡充 2025年度入試では一般選抜A・B日程にて実施。一般選抜A日程で英語を選択した場合では、当日試験の英語の成績もしくは用英語技能検定の他にTEAPなどの取得スコアに応じた得点換算のどちらか高い点数を採用した。一般選抜B日程では、英語を選択した場合、実用英語技能検定の他にTEAPなどの取得スコアに応じた得点換算を採用するなど拡充を行った。 ・2026年度入試においては、一般選抜C日程にも、外部試験利用（英語）を拡充する。 ・総合型選抜における、探究学習アピール方式の導入 2022年の学習指導要領の変更により導入された「総合的な探究の時間」が一巡したこともあり、2026年度入試の総合型選抜において、授業の中で得た成果や気づきをプレゼンテーションし評価する方法を採用する。 ・上記に加え、一般選抜B日程では継続して、国語の記述式問題の出題を行っている他、

全ての入試区分において試験当日に病気・負傷・障害の関係で特別な配慮を希望される受験生に対して、可能な限り柔軟な配慮を行っている。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：大学ホームページにて公表
https://www.jumonji-u.ac.jp/outline/jouhou/activity/soshiki_5c70a85c551e6/

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	6 人	－					6 人
人間生活学部	－	19 人	18 人	8 人	1 人	8 人	54 人
教育人文学部	－	27 人	14 人	11 人	1 人	0 人	53 人
社会情報デザイン学部	－	11 人	2 人	1 人	0 人	0 人	14 人
教養部（一般教育）	－	2 人	0 人	1 人	0 人	0 人	3 人
その他	－	1 人	0 人	0 人	0 人	0 人	1 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0 人		234 人					234 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：大学ホームページにて公表 https://www.jumonji-u.ac.jp/outline/teacher-16040/					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
「全学 F D 委員会」を設置し、毎年「学生による授業評価アンケート」による学生からのフィードバック、 「授業公開」による指導技術の共有、「F D ・ S D 勉強会」等を実施し、これらの活動を通じ教員の教育能力の向上に努めている。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
人間生活学部	350 人	209 人	59.71%	1430 人	1036 人	72.45%	15 人	1 人
教育人文学部	340 人	240 人	70.59%	1570 人	1197 人	76.24%	5 人	5 人
社会情報 デザイン学部	70 人	64 人	91.43%	400 人	209 人	52.25%	0 人	4 人
(旧) 人間生 活学部	募集停止	募集停止	-%	-人	4 人	-%	-人	-人
合計	760 人	513 人	67.50%	3400 人	2442 人	71.82%	20 人	10 人
(備考) 編入学定員を設定しない学部学科にも欠員の範囲で編入を受け入れる								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
人間生活学部	347 人 (100%)	0 人 (0.00%)	338 人 (97.41%)	9 人 (2.59%)
教育人文学部	419 人 (100%)	9 人 (2.15%)	387 人 (92.36%)	23 人 (5.49%)
社会情報 デザイン学部	90 人 (100%)	0 人 (0.00%)	82 人 (91.11%)	8 人 (8.89%)
(旧) 人間生 活学部	6 人 (100%)	0 人 (0.00%)	4 人 (66.67%)	2 人 (33.33%)
合計	862 人 (100%)	9 人 (1.04%)	811 人 (94.08%)	42 人 (4.87%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
人間生活学部	377 人 (100%)	334 人 (88.59%)	15 人 (3.98%)	25 人 (6.63%)	3 人 (0.80%)
教育人文学部	453 人 (100%)	393 人 (86.75%)	27 人 (5.96%)	32 人 (7.06%)	1 人 (0.22%)
社会情報 デザイン学部	104 人 (100%)	86 人 (82.69%)	6 人 (5.77%)	12 人 (11.54%)	0 人 (0.00%)
合計	934 人 (100%)	813 人 (87.04%)	48 人 (5.14%)	69 人 (7.39%)	4 人 (0.43%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) シラバスにおいて、記載事項の主要項目は「教員の実務経験および科目との関連性」、「科目の性格」、「科目の概要」、「授業の方法 (AL を含む)」、「到達目標」、「ディプロマ・ポリシーとの関係」、「授業内容」、「事前事後学習」、「評価方法および評価の基準」、「教科書・推薦書」、「履修上の助言、教員からのメッセージ」等としており、学生の履修計画策定等に資するものとしている。 『十文字学園女子大学 シラバス一覧』 https://www.jumonji-u.ac.jp/outline/syllabus/ 『履修の手引き』(刊行物もあり) https://www.jumonji-u.ac.jp/campuslife/registration-guide/
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) 『十文字学園女子大学履修規程』により、学生の学修の平常成績、試験成績等による評価の結果に基づいて行い、予めシラバス等によりその方法を学生に周知している。 また、『シラバス』(https://www.jumonji-u.ac.jp/outline/syllabus/)では、学修成果の評価について、試験、レポート等を実施するとともに、出欠席の管理やリアクションペーパーを活用することにより学習意欲の把握も行えるよう工夫して総合的に評価し単位認定を行うこととしている。				
学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
人間生活学部	健康栄養学科	124 単位	有	48 単位
	食物栄養学科	124 単位	有	48 単位
	食品開発学科	124 単位	有	48 単位
	人間福祉学科	124 単位	有	48 単位
教育人文学部	幼児教育学科	124 単位	有	48 単位
	児童教育学科	124 単位	有	48 単位
	心理学科	124 単位	有	48 単位
	文芸文化学科	124 単位	有	48 単位
社会情報 デザイン学部	社会情報 デザイン学科	124 単位	有	48 単位
G P Aの活用状況 (任意記載事項)		公表方法：大学ホームページにて公表 https://www.jumonji-u.ac.jp/media/04seiseki2025.pdf		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：学生生活及び学習、卒業に係る調査を実施し、HP にて公開 https://www.jumonji-u.ac.jp/outline/jouhou/activity/4_5d7b3d10c7a19/		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：大学ホームページにて公表 https://www.jumonji-u.ac.jp/outline/jouhou/activity/shisetu_5c70aa3edde54/
--

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
人間生活 学部 【1年次生】	健康栄養学科	800,000 円	250,000 円	400,000 円	教育充実費
	食物栄養学科	800,000 円		400,000 円	
	食品開発学科	800,000 円		400,000 円	
	人間福祉学科	750,000 円		350,000 円	
教育人文 学部 【1年次生】	幼児教育学科	770,000 円	250,000 円	350,000 円	教育充実費
	児童教育学科	770,000 円			
	心理学科	750,000 円			
	文芸文化学科	750,000 円			
社会情報 デザイン学部 【1年次生】	社会情報 デザイン学科	750,000 円	250,000 円	350,000 円	教育充実費
人間生活 学部 【2年次生～】	健康栄養学科	800,000 円	—	540,000 円	教育充実費
	食物栄養学科	800,000 円		540,000 円	
	食品開発学科	800,000 円		540,000 円	
	人間福祉学科	750,000 円		490,000 円	
教育人文 学部 【2年次生～】	幼児教育学科	770,000 円	—	490,000 円	教育充実費
	児童教育学科	770,000 円			
	心理学科	750,000 円			
	文芸文化学科	750,000 円			
社会情報 デザイン学部 【2年次生～】	社会情報 デザイン学科	750,000 円	—	490,000 円	教育充実費

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
（概要） 入学時から学習支援や学習相談を行い、講義や演習を円滑に受講できるよう、専門教員がサポートする学修支援センターや、特別支援教育に関する研究・支援・特別支援学校教諭免許等に関する相談に対応する特別支援教育研究所を設置している。また、学生の経済的負担を軽減し、安心して大学生活を送れるよう、大学独自の奨学金等、経済的支援制度を設けている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
（概要） 学生の進路・就職指導を行うキャリア支援部を設置している。1年次から性格診断や適職診断などを通して「進路・就職への意識づくり」を進めている。また、個別指導には特に力を入れ、学生生活の過ごし方から役立つ資格取得の相談、就職活動でのアドバイスなど総合的にカウンセリングを行い、学年や時期を問わず、随時丁寧かつ継続的に相談に対応している。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
（概要） 学生の健康維持をサポートするため、健康管理センターを設置している。大学内でのケガや、体調不良、あるいは医師や保健師への健康相談の希望など、心身の健康に関して対応している。そのための事務室、医務室、安静室を設置している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：大学ホームページにて公表

<https://www.jumonji-u.ac.jp/outline/jouhou/activity/>

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格 A 4 とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F111310102067
学校名 (〇〇大学 等)	十文字学園女子大学
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人 十文字学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		266人（ ）人	268人（ ）人	293人（ ）人
内 訳	第Ⅰ区分	143人	139人	
	(うち多子世帯)	()人	()人	
	第Ⅱ区分	78人	81人	
	(うち多子世帯)	()人	()人	
	第Ⅲ区分	34人	36人	
	(うち多子世帯)	()人	()人	
	第Ⅳ区分（理工農）	人	人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	11人	12人	
	区分外（多子世帯）	人	人	
家計急変による 支援対象者（年間）				- 人（ ）人
合計（年間）				294人（ ）人
(備考) 上記には給付奨学生だが授業料減免は受けていない者（本学独自の授業料免除制度により全額免除を受けている） 1名を含む				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	- 人	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	0人	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	- 人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	- 人	人	人
計	- 人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2 年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学(3月未満の期間のものに限る。)又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のもの)に限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。))及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。))	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	- 人	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のもの)に限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。))及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。))	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単 位時間数が警告の基準に該当)	0人	人	人
GPA等が下位4分の1	16人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意 欲が低い状況	- 人	人	人
計	16人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。